

第 2 3 回かんもん景気ウォッチャー調査

平成 2 2 年 5 月 調査結果

最終消費を中心とした関門地域の景気動向を、「第 2 3 回かんもん景気ウォッチャー調査」結果からみると、3 か月前と比べた景気の現状判断 D I は、前回調査（平成 2 2 年 2 月）から 7. 5 ポイント上昇して 4 5. 8 となり、現在の景気水準自体の判断 D I は前回は 6. 6 ポイント上回る 2 8. 3 となった。なお、先行き判断 D I は、5 0. 0 の見通しにある。

景気ウォッチャーによる判断を総合すると、関門地域の景気の現状は厳しいものの、持ち直しの動きがうかがえるものになっている。

（この調査の対象先）

・ 大型小売店・専門店等	6 人
・ 飲食店関係（含むスナック）	5 人
・ 観光関連（ホテル・旅行業者）	7 人
・ タクシー業界	4 人
・ 商工業団体等	8 人

計 3 0 人

〔 照会窓口：調査室 〕
TEL：083-223-3632

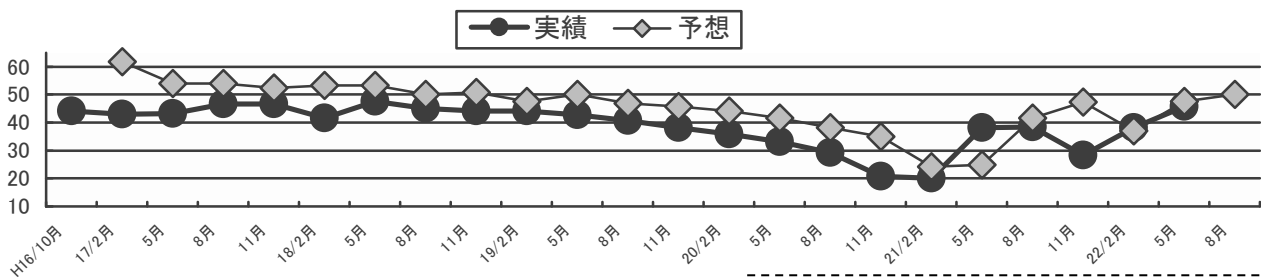
調査結果の概要

1. 景気の方角性に関する判断DI

3か月前と比べた景気の方角性に関する判断DIは、45.8と前回調査を7.5ポイント上回った。なお、平成22年8月頃を見通した先行き判断DIは、50.0となっている。

平成21年 8月実績	平成21年 11月実績	平成22年 2月実績	平成22年 5月実績	平成22年 8月予想
38.4	28.4	38.3	45.8	50.0
〔前回調査時点 予想25.0〕	〔前回調査時点 予想41.7〕	〔前回調査時点 予想47.3〕	〔前回調査時点 予想47.5〕	

▽「景気の方角性に関する判断DI」（調査開始時点からの推移）



(注)DIの見方

判断DIは「50」を基準点として、上回れば「景気が良い」との見方が多く、下回れば「景気が悪い」との見方が多いことを示す。

(1) 3か月前と比べた景気の現状判断DI

3か月前と比べた関門地域の景気の現状判断DIは、45.8と前期から7.5ポイント改善したが、“景気は横ばい”であることを示す50.0を割り込んだままとなっている（内閣府による全国の調査結果は47.7）。

景気ウォッチャーからは、「催事・イベントを実施しても一時的効果のみで長続きせず、消費マインドの好転は感じられない」（商工団体等）など依然厳しいとする意見が多く寄せられている。一方、「自動車などの好調業種関連部品や輸入衣料の荷動きがよくなりつつある」（商工団体等）、「低額品から少し上の価格帯のものにも動きが出てきた」（専門店）、「休日の賑わいは増し、飲食関係には好影響が出ている」（観光関係）などの意見があり、関門地域の景気は依然厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがうかがえるものとなっている。

(2) 景気の先行きに対する判断D I (3か月先までの見通し)

3か月先までの景気の判断D Iは50.0となった(全国の先行き判断D Iは48.7となっている)。

景気ウォッチャーからは、「子ども手当の支給開始はプラス要因だが、政治的・社会的な部分も含めて将来が明るいとのイメージがもてない現状では消費の拡大は見込めない」(観光関係)とする慎重な意見とともに、「省エネ型商品への関心は強い」(専門店)、「低価格志向は続いているが、数量面でカバーできる状況であり手ごたえを感じている」(小売)、「生産や輸出面での景気の持ち直し効果が消費の部門にも波及してくることを期待する」(商工団体等)とする意見がある。

また、「釜山と門司を結ぶ新フェリー航路が開設されたが韓国をはじめ多くの外国人は門司を通過点として素通りしている。こうした人の需要を取り込む方策が必要である」(商工団体等、観光関係)、「境港が好例だが、有形無形の豊富な文化を市民が中心となって発信していくことが重要である。街興しができなければエネルギーが生まれなし、前途は厳しい」(タクシー)といった意見が出されているところである。

2. 現在の景気の水準に対する判断D I

関門地域の判断					(参考) 全国の判断				
21年 5月	21年 8月	21年 11月	22年 2月	22年 5月	21年 5月	21年 8月	21年 11月	22年 2月	22年 5月
26.7	21.4	19.8	21.7	28.3	23.1	28.7	24.9	30.6	37.5

現在の景気の水準自体が「良いのか」、あるいは「悪いのか」に関する判断D Iは、前回調査から6.6ポイント改善して28.3となった。

以上

(参 考)

かんもん景気ウォッチャー調査について

1. 調査の目的

関門地域において、景気に関連深い動きを直接観察できる立場にある方々のご協力を仰ぎ、この地域の動向を的確かつ迅速に把握するとともに、景気動向判断の基礎資料の1つとすることが目的。

2. 調査の範囲

(1) 対象地域

下関市周辺地域および北九州市門司港周辺地域。

(2) 調査客体

個人消費の動向を中心に景気動向を敏感に反映する現象を観察できる方々の中から、30人の方にご協力いただいている。

3. 調査事項

(1) 景気の現状に対する判断（方向性）

(2) (1) の理由

(3) 景気の先行きに対する判断（方向性）

(4) (3) の理由

(参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4. 調査・発表時期

調査は、毎年4回（2月、5月、8月、11月の月中）実施し、その翌月発表する。

5. DIの算出方法

景気の現状、又は先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DI値を算出している。

評価	良 い (良くなっ ている)	やや良 い (やや良く なっている)	どちらとも 言えない(変 わらない)	やや悪 い (やや悪く なっている)	悪 い (悪くなっ ている)
点数	+ 1	+ 0. 7 5	+ 0. 5	+ 0. 2 5	0